

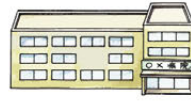
保土ヶ谷区の災害時の医療体制について

出来る限り多くの命を救うため、災害時にけがをした場合は、適切な受診行動へのご理解とご協力をお願いします。

災害が起きた時、限られた医療機関の中で
混乱なく受診するために大切なことは…

- ・日頃から地域にある医療機関を知っておく
- ・症状の重さに応じた医療機関を受診する

●災害時には、目印としてのぼり旗を立てます。



◆ 災害拠点病院へ 【赤色ののぼり】

横浜市立市民病院を含む
市内 13 病院



◆ 災害時救急病院へ 【黄色ののぼり】

横浜保土ヶ谷中央病院、聖隷
横浜病院、育生会横浜病院、イ
ムス横浜狩場脳神経外科病院、
港北病院※、常盤台病院※
※精神疾患に対応



◆ 診療所へ 【黄色ののぼり】

被災を免れ、負傷者（軽症者）
の受け入れが可能な診療所

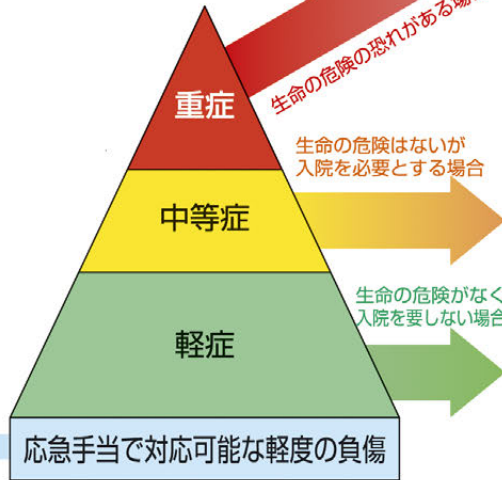


また、地域防災拠点の負傷者（
軽症者）に対しては、医師・薬
剤師・看護師などの医療救護
隊が巡回診療などを行います。

◆ 区民の自助・共助 による応急手当

医師の診療を必要としない
極めて軽度の負傷は、
自助・共助による応急手当
を行ってください。

なお、全ての地域防災
拠点に応急手当用品（消毒
液、包帯、ばんそうこうな
ど）が配備されています。



応急手当で対応可能な軽度の負傷

【重症度別医療提供体制のイメージ】

※おくすり手帳は緊急治療時などにも役立ちます。
災害避難時にも必ずお持ちください。



トピック ～ 帰宅困難者は大都市特有の深刻な問題 ～

「むやみに移動を開始しない」ことが大切です。

- ・首都圏で大地震が発生すると、鉄道などの交通機関が止まってしまう、帰宅できなくなるおそれがあります。
- ・多くの人が一斉に帰宅しようとする、路上や駅周辺で大混雑が発生し、大変危険な状態になります。

○まず、家族で確認

大地震で交通機関が途絶えたときは、すぐ
に帰宅しない場合もあることをあらかじめ家族
に伝えておきましょう。

○安否確認手段を決めておこう

急いで帰宅しようとするのは、家族や自宅の
被災に対する不安が大きなき動機となります。

**安否確認の方法（どの手段で、どの電話番号
で登録・再生するのかなど）**について家族
内で決めておきましょう。

職場・学校に一日以上留まるための準備

自宅が職場や学校から遠く離れて
いる場合には、職場や学校に**一日以上
留まり翌日以降に徒歩で帰宅**する
ことを考えましょう。

翌日帰宅は、大量の人が、一斉に
徒歩で帰宅をすることによる混乱を
抑えるのに大変効果的な方法です。

一日以上留まるための備蓄を職場
などに準備しましょう。

備蓄の例



●帰宅困難者一時滞在施設検索システム「一時滞在ナビ」 携帯電話で収容できる施設の情報を検索することができます。
<https://www.city.yokohama.lg.jp/b-m/>（モバイル版） <https://www.city.yokohama.lg.jp/b-sp/>（スマートフォン版）